



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市大船1709-18 FAX 0467-44-5876

創立21年目を迎えて

会長代行 山崎宗城

2010年は協会創立20周年の数々の記念行事があり、また協会創立以来会長を務めてこられた下山貞明氏の突然の逝去といった出来事がありました。

その後を受けて、スタートした協会運営は、理事会組織も小さなものとなり、さまざまな面で軌道に乗るまで時間がかかってしまいました。しかしながらお手伝いいただいた会員の協力と、新理事の皆様の努力で、こつこつと牛歩の歩みを続けてきています。

2011年8月11日には新駐日スペイン国大使ミゲル・アンヘル ナバーロ閣下ご夫妻を横浜にお迎えして、故フランシスコ・カスティージョ大使の58回忌の墓参を行い、横浜中華街にて大使ご夫妻歓迎の夕食会と、新大使による協会名誉会長受諾の署名セレモニーを執り行いました。

スペインのさまざまな面に関心を持っている会員達のサークル活動支援の企画も、「スペインを識ろう会」「シネマ・サークル」がスタートし、今後「フラメンコ・サークル」「アート・サークル」のスタートが待たれております。すでに12月には「スペイン料理を作って食べる会」を開催し、続いて新年親睦パーティなどの計画もスタートしました。

スペイン語教室も生徒の皆様の意欲に支えられて継続しています。

横浜スペイン協会は、現在約100名で運営しております。全国スペイン友好団体の一員として日本各地のスペイン協会との交流や、私達の協会による桜の植樹先であるスペイン・ロンダ市、東京のスペイン大使館の桜の開花に思いを馳せ一步一步前進して行きましょう。

駐日スペイン大使ミゲル・アンヘル ナバーロ 閣下ご夫妻を横浜にお迎えして

2011年8月11日、駐日スペイン大使として日本に赴任されましたミゲル・アンヘル ナバーロ大使ご夫妻を、横浜スペイン協会として初めて横浜にお迎えして歓迎の催しを行いました。

山崎会長代行と真木幸子理事が大使ご夫妻をお迎えし、まずスペイン人建築家アレハンドロ・ザエラ・ポロ氏デザインの「大さん橋国際客船ターミナル」をマリン・シャトルに乗船し湾内クルージングとして海上からご覧頂きました。この手配を横浜市港湾局にお願ひし、当日は横浜市港湾局賑わい振興課の宮本厚二課長と松本尚子さんが湾内の説明をしてくださいました。

午後5時に山手の外人墓地に向かい、20名程の会員と共に今年58回忌をむかえる故フランシスコ・ホセ・デ

ル・カスティージョ大使の墓参を行いました。

大使ご夫妻によるスペインの国旗をあしらった花輪の献花に引き続き会員一人一人が白菊の献花をしました。

夕方6時からの、大使ご夫妻を歓迎する夕食会には会員30名が出席、石井事務局長の進行で、山崎会長代行の挨拶（栗山会員の通訳）、大使閣下による横浜スペイン協会名誉会長受諾署名のセレモニー、大使閣下の御挨拶（色川紀子大使秘書通訳）と乾杯で会食をスタート。会食もしばらく進行した頃、大使ご夫妻が率先して各テーブルの会員一人一人と歓談されたりまた写真に納まるなど気を配っていただきました。おかげで出席者それぞれが大使とふれ合うことができました。



▲会食後大使夫妻を囲んで記念撮影

（山崎宗城）

サン・ファン・バウティスタ号出帆 記念イベント、桜植樹に参加して

10月28日という日は支倉常長が石巻の月の浦からローマに向けて出帆した日で毎年、石巻ではサン・ファン感謝デーが実施されています。2011年はその出帆の発端となったスペインからの使命を帯びたビスカイノがその2年前東北に来て伊達政宗と接してから400年にあたります。スペイン友好400年記念と震災を共に乗り越えようとのスローガンのもと、イベントの一環としてサン・ファン号の復元船が置かれている宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）のパークに桜を植樹することになり、宮城スペイン協会から一緒にスペインに植樹した横浜スペイン協会に協力のお誘いがありました。

朝8時に仙台駅前からバスで出発しました。海岸線を走る鉄道は完全復旧されていなく、道路で行くしかありません。宮城スペイン協会からの参加は20数名ということでした。

2時間弱かかりましたが内陸の高速道路を走っている時は余り震災の爪痕は車窓からは伺えませんでした。石巻に入ると津波被害の7ヶ月後の風景が広がっていました。石巻は復興が早いほうだと言われていますが、全崩壊の建物や瓦礫は片付けられていて土地はならされてはいても、津波を耐え抜いて残った家々は骨組みだけが残るか、窓や戸は破壊されて後ろまで透けて見えています。ところどころに瓦礫の山が積み上げられ、

特に自動車の巨大な積み上げには今後の処理を思ってショックを受けました。地盤沈下で河の沿岸は水が溢れないよう積み上げられた土のうが続いていて、すべてが応急処理で今後の膨大な復興の時間が思いやられました。

サン・ファン館は海を前にした小高い丘の上であり、海辺に立ち入る事はできませんが奇跡的に津波からの壊滅的被害を免れたサン・ファン号の一部をミュージアムの窓から見下ろせました。暑さを感じるほどの快晴に恵まれ、丘の上のパークでしだれ桜の記念植樹が行われました。大震災の年、スペイン友好400年の記念を刻んだ桜がこれから



▲桜植樹・晴れて終了

から100年、サン・ファン号を見下ろしながら毎年みごとに咲いて欲しいと願い、宮城スペイン協会の方々と共にスコップを握りました。来年にはもう花見ができるということです。なお後日宮城スペイン協会より、横浜スペイン協会の支援に対してお礼状をいただきました。

（中村 瑛子）

新年親睦パーティに参加して

●新年親睦パーティ

日 時：2011年2月12日（土）13：30～16：00

会 場：波止場会館1階 多目的ホール

2011年2月12日の土曜日、横浜スペイン協会新年親睦パーティに初めて参加しました。2月なのになぜ「新年パーティ」？と思いましたが、HPを見ると昨年も一昨年も2月開催のようでびっくりでした。当時私はまだ本会の会員ではなくスペイン語コースの受講生だったのですが、同学の中村瑛子さんから合唱（さくら合唱団）への協力かたがた本パーティへのお誘いを受け参加しました。

会は澤田真人理事の司会のもと、飯塚劬会長代理の挨拶、中西輝夫理事による乾杯が行われ、和やかな食事の時間が始まりました。



▲さくら合唱団の美声に酔いしれる？

ほどなく我々合唱団の出番となり、団名の入ったおそろいのエンジ色のベカ（肩にかけるV字型の布の懸章）をつけて舞台上がりました。本日のパーティで披露する曲目はMaria La O（キューバ）、De colores（スペイン・バスク地方）、Cielito Lindo（メキシコ）、Claveritos（スペイン）の4曲です。昔会社のコーラスで歌っていたことはあるのですが、久しぶりの舞台なので緊張です。しかしゆったりした会場の雰囲気に加え明快な栗山さんの指揮や楽しげな小林さんの伴奏、それに釜さんのすてきなテナーの声に乗せられて気持ちよく3曲を歌うことができました。

引き続きは岡田重男さんの手品です。切断した新聞紙の復元や何回もの花の色換えなどみごとな技を披露され会場をわかせました。

次は高橋咲子さんの「アルパ」の演奏です。私は初めてでしたがパラグアイなどでは人気のある楽器だそうで、ハープよりだいぶ小さい形なのにたいへん豊かな音色で、大いに楽しむことができました。

続いて福長昭代さんによるフラメンコがありました。細身の体でのきびきびとした踊りに見ほれましたが、現地の舞台に比べ床と天井の音の反響が少ないのは少し残念でした。しかし舞台外で有志が飛び入り参加で踊っていたのは愉快でした。

パーティも次第に盛り上がり、楽しい懇談のなかでテーブルに空のお皿も出始めたころ、佐藤・中山兩人によるアルゼンチンタンゴが始まりました。先ほどの高橋さんによるアルパの伴奏とともにすばらしい踊りを披露され、会場の喝采を浴びました。

その後舞台は再び合唱団の出番となり残る1曲Claveritosをみんなで歌って会場はますます盛り上がりました。どのグループも会話が弾んでいましたが、楽しい会もやがて石井加奈弘理事の閉会挨拶をもって午後4時ころ無事にお開きとなりました。

最後になりますが、個人的にはこんな楽しい会に参加できて本当によかったです。会の宣伝になってしまいかもしれませんが、友人を誘い、来年は会員の資格でぜひまた参加したいと思います。（佐竹信一）

スペインの祭りと食

●7月のスペイン・サロン

講師：渡辺万里さん（スペイン料理文化アカデミー主宰）

日時：2011年7月16日（土）13：00～16：00

会場：波止場会館4階

スペイン料理研究家渡辺万里さんのお話が、7月16日、波止場会館の4階で開かれました。

お話は先ずスペインが「多様性の国」であることが特徴であり、スペイン語でも *España Plural* といわれていることが紹介されました。次に食は生活に密着しており更に食はそれぞれの地域のお祭りに特徴が出ているとして、スペインの6つの地域のお祭りとそこで食される料理を、美味しそうでカラフルなスライド付きで説明されました。紹介された祭りとそのに伴う料理は次の通りです。



▲プロジェクターを使って説明する渡辺講師

1. Valenciaの春を迎える火祭り：

春3月を迎え街中の通りの角々に大きな張りぼて人形が立ちます。祭りの最中には各町内から色彩豊かな民族衣装に身を包んだ子供や女性たちが花束を持って市中をねり歩き、最後に教会に花を捧げる賑やかな *Ofrenda de Flor* という行事があります。

バレンシアはアンダルシア地方と同じ様にイスラム文化がかなり長い間残っており、農業が得意だったイスラムの人々がここに米とオリーブをもたらし、その結果、有名なバレンシアのパエージャや、かぼちやの揚げドーナツ (*Bunuelos de Calabaza*) が生まれました。

2. Semana Santa（復活祭）のお祭り：

セマナサンタの間は肉を食べられないので、料理は精進料理の体系となるそうです。

3. Feria de Abril（春祭り）

セマナサンタの2週間後にセビージャで開かれるお祭りで、もともとは宗教色のない物々交換の見本市から出発し、1920年代に今の規模までに大きくなったそうです。

ここでの食文化はハモンの魅力とシェリー酒の文化です。

4. Fiesta de Sanfermines

毎年7月にパンプローナで開かれるご存知の牛追い祭りです。

闘牛用の牛は普通の牛よりずっと大きく体重は600kgあるそうです。肉は硬くあまり美味しくなく値段も安いそうです。

5. Flamenco Festival

グラナダやセビージャを中心とするフラメンコの地域では冷たいトマトのスープ (*Gazpacho*) が逸品だそうです。ジュースにしても大変よいようです。

6. Navidad

最後のお祭りの紹介はクリスマスでした。クリスマスの食に関しては、昔は鯛をラバの背に積んで海岸から運んできて食べたり、ここ数年では王様のリングパン：太くてとても大きなリング状のパン (*Roscon de Reyes*) が人気になっているようです。

渡辺万里さんのお話はスペイン文化に対する深い理解と共感のもとに、ユーモアを交えスペインの食と祭りの関連性について分かりやすく説明していただき、食を通してのスペイン文化の多様性の一端に触れることが出来、すっかり楽しませていただきました。

なお、上記の料理の中から精進日の豆のスープ (*Potaje de Cuaresma*) とアンダルシアのガスパチョ (*Gaspacho Andaluz*) のレシピが皆さんに配られました。このレシピでスープとジュースをつくって本物のスペインの味を楽しんでみたいですね。

（幸島 雄一郎）

2011夏期スペイン文化講座を受講して

通常のスペイン語授業（各クラス別）は8月が休講となります。

スペイン語学習における1ヶ月間のブランクを埋め更にスペイン文化を集中的に学びたいという「一石二鳥」の効果を狙って、今年も夏期スペイン文化講座を受講しました。

スペイン人講師2人（Vicente、Francisco）による講義は全てスペイン語で行われ、受講生の語学レベルも自分の能力をかなり上回っていましたが、予め知らされていた講義の題目に沿ってそれなりの予習をしたことにより、何とか自分もついていけないのではないかと考えています。

前半のVicente先生の講義は、スペインの気候風土・アラブ人の影響・中南米への進出・スペイン映画などを話題に受講生との対話を重視された内容でした。後半のFrancisco先生の講義は、スペインの代表的作家Cervantesそして代表的画家Goyaの作品と生涯に関するアカデミズム溢れる内容であったと感じています。

合計8回の講義そして授業最終日の昼食会などを通じて、スペイン語そしてスペイン文化を学習したいと願う自分自身に大きな刺激を与えることができました。さらに、クラス別授業の垣根を越えた受講生同士の親睦も深めることができました。

（二川 昭雄）



▲先生を囲んで参加者で記念撮影

Premios Príncipe de Asturias a los “Héroes de Fukushima”

「フクシマの英雄」にスペイン皇太子賞

東日本大震災の復興に際し福島第一原発の作業員にスペイン皇太子賞が贈られました。
ナバール口駐日スペイン大使より横浜スペイン協会の会員の皆様にもお知らせ頂くよう連絡がありました。

“スペインのアストurias皇太子財団は9月7日、国際社会で活躍する個人や団体を表彰するアストurias皇太子賞平和部門の受賞者に、福島第一原発事故で復旧作業にあたった同原発の作業員、消防士、自衛官ら「フクシマの英雄たち」が選ばれたと発表した。

この平和部門賞には44名の候補者が名を連ねる中、フクシマの英雄への受賞が決定されたもの。

同財団審査委員長の発表の中で、「去る3月に大震災が発生してからも平静を保ち、献身的な対応を示した日本社会全体を高く評価するとともに、特に、自らの命を危険にさらしながらも事故発生後の対応にあたった作業員の方々の献身さは英雄と呼ばれるに相応しく、多くの人命や環境に与える広範囲な被害を回避することができた。逆境の中での勇気、任務への責任感や使命感、公德心を世界中へ示した。」とし、アストurias皇太子平和部門賞へ最も相応しいと、同賞授与が決定した。

同賞の授賞式はスペインで毎年行われる文化活動の中でも最も榮譽あるものであり、フェリペ・デ・ボルボン皇太子殿下（アストurias公）主宰の下、来る10月21日にスペインのオビエド市に於いて開催される予定となっている。”



▲皇太子夫妻を囲んでの記念撮影
（アストurias皇太子賞受けたフクシマの英雄たち）

シネマ・サロン（仮称）のご案内

数年前まで活動していた「映画サロン」は、休眠状態のままになっておりましたが、その活動の中心会員の松本益代会員に再度アドバイザーをお願いし山崎宗城会員がプロモーター役を引き受けて仮称「シネマ・サロン」として復活することになりました。まずはスペイン及び中南米を含むスペイン語圏の映画情報を興味のある仲間に配信し各自で自由に映画を観てもらい、年に数回映画談義をするというの無理のない活動から始めることにしました。まずは次の2本の映画を鑑賞しました。

(1) ビューティフル（スペイン・メキシコ合作）

監督：アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトウ

主演：ハビエル・バルデム（本年度スペイン・ゴヤ賞 最優秀主演男優賞受賞）

“父が生きた証 — スペイン・バルセロナ。都会の乾いた貧困の中、愛する2人の子供と、情緒不安定でドラッグに頼る妻を支えて暮らす男、ウスバル（ハビエル・バルデム）。彼は、麻薬取引や中国人移民の不法労働を手配するなど、あらゆる闇取引で生計を立てていた。しかしある日、自分が末期ガンに犯されている事実を知る。忍びよる死に直面しながらも、家族にその事実を隠し通そうとするウスバルに、更なる試練が降りかかる。……”

(2) ペーパーバード 幸せは翼によって（スペイン映画）後援：スペイン大使館

協力：セルバンテス文化センター東京（第34回モントリオール世界映画祭観客賞受賞）

監督・脚本・音楽：エミリオ・アラゴン

出演：イマノル・アリアス、ルイス・オマール、ロジェール・プリンセプ、カルメン・マチ

“1930年代スペイン・マドリッド。内戦で妻子を失った喜劇役者のホルヘは、悲しみの余り1年間行方不明になる。内戦に勝利したフランコによる独裁体制が強化されつつあるマドリッドに舞い戻り、相方のエンリケと再会した彼は、エンリケに引き取られた孤児のミゲルとともに3人で暮らすことになる。そんな中一座にフランコ将軍の前で「御前公演」の命令が下る。一座の中には、依然として破れた共和派に忠誠心を抱いている者もあり、それを「またとない好機」と捉える。ホルヘは、彼等の企てにどう係わって行くのか……”

次回鑑賞予定映画「幸せ パズル」（アルゼンチン・フランス合作映画）

☎シネマ・サロン連絡先 e-mail : aiyes_info@yokohama-spain.jp

「旅でスペインを識ろう会」のお誘い

会員の皆様の多くは一度は憧れのスペインに旅行されたことがあるかと思いますが、地図を片手にスペイン国内を列車やバスで移動しているときに幹線から外れた遠くに白亜の家並みが見えたりするとちょっと寄ってみたかったなんていう経験をお持ちの方は多々いらっしゃるのではないのでしょうか。

そんな方々に月に一度経験談、体験談を資料を持ちより、まだ見ぬスペインの奥深さを披歴していただくという趣旨で始めたのがこの「旅でスペインを識ろう会」のサークル活動であり協会文化サークルの一環として立ち上げました。

もちろん、まだスペインには一度も行ったことはない方や旅行を計画している方の参加も歓迎します。

2011年の2月に始まり11月に9回目を迎えたこの活動は、第1回目のテーマを「カタルーニャ地方（バルセロナを除く）の魅力」と題して参加者の皆様に経験談を語ってもらい、それから南下しカディス、ヘレス・デラ・フロンテラ等の都市周辺を地図上で散歩し現在サラマンカ付近に到着しました。次はどのあたりをテーマにするかはその都度決めています。開催要領は次のとおりです。

スペインの街をもっと識りたいと思っている方、スペインの地方都市をよくご存じの方等、ぜひお気軽に参加して経験談を語ってください。

開催日 毎月第二月曜日（祝日の場合は第三月曜日とする）

会場 県民サポートセンター10階フリースペース（横浜駅西口）

参加費 一人300円、参加資格は老若男女どなたでも結構です。

☎旅でスペインを識ろう会連絡先 e-mail : aiyes_info@yokohama-spain.jp



▲きょうはどこの町かな？ 興味津々の参加者

//////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

内田祐誠 (Yusei Uchida)

東京都中央区在住 2010年10月入会

一度もスペインに行った事はありませんが、日本国と日本人、スペイン王国とスペイン人をこよなく愛しております。皆様どうぞよろしくお願い致します。



内田麻衣 (Mai Uchida)

東京都中央区在住 2010年10月入会

私はスペインのことが大好きです。そしてフラメンコも習っております。

最近テレビなどでもスペインの行事や祭りなどが報道されていて、更に興味を持ちました。なので皆様、どうぞ私に色々な事を教えて下さい。よろしくお願い致します。



佐竹信一 (Shinichi Satake)

横浜市磯子区在住 2011年3月入会

イタリア語学習から鞍替えしてスペイン語を学び始めたのは、ここ数年のメキシコやコロンビアへの出張と昨年のスペイン旅行がきっかけです。

ヨーロッパ世界とイスラム世界が共存するスペイン文化は独特で、これから大いに楽しんでいこうと考えています。



幸島雄一郎 (Yuichiro Koujima)

横浜市神奈川区在住 2011年7月入会

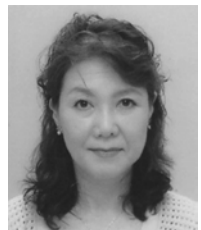
スペイン文化に興味があります。スペインのバレンシアに家族ともども2回駐在しました。(1973-1978、1985-1988 計8年) その後南米パラグアイ駐在 (JICAアスンシオン 2003-2005 2年) と中米メキシコ駐在 (JICAオアルカ 2008-2009 10ヶ月) しました。よろしくお願い致します。



吉田美紀子 (Mikiko Yoshida)

鎌倉市在住 2011年7月入会

十数年前JICAの専門家で赴任した夫と共にパナマ共和国に暮らしました。この時が私のスペイン語との初めての出会いでした。全てのことが真新しく感じられ大なる好奇心を持って、パナマの生活を楽しみスペイン語を学ぶことにどっぷりとつかりました。2005年10月から「戸塚スペイン語教室」で学び現在役員として運営に携わっています。また鎌倉市観光協会が主催したボランティアガイドの養成講座を修了し、2008年4月からスペイン語ガイドを行っています。貴協会を訪れるスペインの方々に鎌倉をおもてなしの心で、案内ができれば幸いです。貴協会の活動にも積極的に参加しスペインと関わっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



小山 法 (Sadamu Koyama)

横浜市西区在住 2011年10月入会

南米のベネズエラに約10年住んでいました。

退職を機会にラテン文化との接触を継続したくて、入会を申し込みました。

よろしくお願い致します。



お詫びと訂正 AIYES通信57号会員紹介で下山恵里会員を恵理と記してしまいました。お詫び申し上げます。

新年親睦パーティのお知らせ

横浜スペイン協会の新年親睦パーティを下記の通り開催いたします。

日 時：2012年2月18日（土）13：30～17：00（受付開始13：00）
会 場：波止場会館1階 多目的ホール
横浜市中央区海岸通1-1 TEL：045-201-3842
（東急みなとみらい線日本大通り駅徒歩3分またはJR関内駅下車徒歩15分
大栈橋入口の信号「開港広場前」そばレストラン「スカンディア」の並びの裏）
会 費：会員、一般とも2,000円
申込締切：2月13日（月）までに電話・メールで別紙担当者までご連絡ください。
料理、ワイン、カバ等差し入れは大いに歓迎いたします。
詳細、連絡先は別紙チラシでご確認ください。

***** 事務局からお知らせ *****

2012年は役員改選の年にあたります。

役員任期は2年ですが横浜スペイン協会の運営に興味のある方は自薦他薦を問わず事務局までメールで連絡ください。たくさんの積極的な応募、お問い合わせをお待ちしています。

事務局メールアドレス aiyes_info@yokohama-spain.jp

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	東京都港区台場2-2-1 ザ・タワーズ・ダイバ1F	03-5531-2151	生ビール1杯無料

＜編集後記＞ ギリシャに端を発した経済危機がスペインにも及んでいます。しかしその危機は単に一国の問題ではなく世界的に関係するということは、それだけグローバルな時代である証しです。スペイン好きの私たちも無関心ではられません。協会は経済的に援助するわけにはいきませんがわれわれの使命である「文化を通じた交流」でスペインを応援していきたいと思ひます。さて久しぶりに通常号の発行となりました。

冒頭の山崎会長代行の挨拶にもありますが体制をスリム化して徐々に協会活動を活発にしていきます。

新しいサークルも始まりました。AIYES通信にも変わらずご支援のほどお願いします。

（鈴木生雄）

編集委員 澤田真人 石井加奈弘 桜田由美 鈴木生雄 千葉博子 中西輝夫 真木幸子 山崎宗城

* 投稿寄稿宛先 〒247-0056 鎌倉市大船1709-18
横浜スペイン協会会報係 e-mail : aiyes_press@yokohama-spain.jp
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.jp>

次号の原稿締切は
2月10日(金)です。
投稿は800字以内、写真1点をお付けください。